



発行日：平成29年9月1日 発行人：かとうファミリークリニック

抗菌化学療法認定医として 抗菌薬の適正使用を推進しています

夏休みも終わり、朝夕は少し涼しくなり夏の疲れが出る時期でかぜには注意が必要です。さて、かぜといえは熱。熱が出たら、一昔前までは抗生物質(抗生剤・抗菌薬)でした。

ウイルス感染であるかぜ症候群に抗菌薬は不要、という考え方はコンセンサスが得られ、患者さんにも大分浸透してきているように思います。もちろん細菌感染による扁桃炎や気管支炎、溶連菌による咽頭炎などには抗菌薬による十分な治療が必要です。

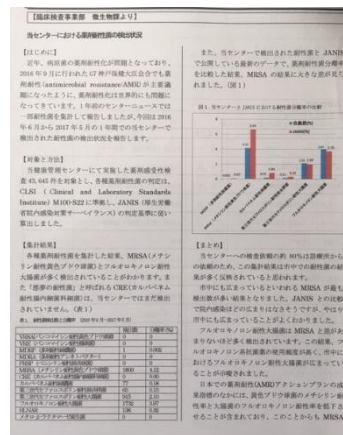
抗菌薬の不適正な使用による薬剤耐性菌の増加は世界的に問題となっており、昨年の伊勢志摩サミットの主要議題にもなりました。

抗菌薬による治療は、適正な種類の薬を、適正な量・適正な期間投与することが重要です。例えて言いますと、ヒアリが恐ろしいからといって、弾道ミサイルを使ってやっつけるのでは、ヒアリを退治するという目的は達成されるものの、周囲への影響が非常に大きいので、こまめにヒアリがいる場所を探してアリの巣コロリを使って駆除しましょう(本当に効くそうです)、というような話です。

私(院長)が17年前、研修医として指導医よりまず最初に教えられたのが、発熱に対する対処の仕方でした。熱が出たら即解熱剤・抗生剤ではなく、徹底した診察により熱の原因は何か、感染症であればどの臓器の感染で原因菌は何が考えられるか、そしてどの種類の抗生剤をどれだけの量と期間投与するか…という考え方の基本を徹底的に教えられました。3つ子の魂100まで、ではありませんがこの時学んだことがその後の自分の診療スタイルに大いに影響していると思っています。

子供たちが耐性菌による感染症で苦しめない未来のために、今できることを進めていかなければならないと思っています。

治療の内容やお薬の内容など、気になることがありますしたら、お気軽にご相談ください。



当院での検査をお願いしている検査センターの微生物検査での薬剤耐性の状況。MRSAのほかにキノロン系薬に耐性の大腸菌がみられています。膀胱炎などでの安易なキノロン系抗菌薬の処方避けるべきと考えます。

スタッフより

今年の夏は本当にムシムシと暑く、毎日のように不安定な空を、洗濯物も安心して干せずうらめしく思いながら過ごしました。お盆休みはご先祖様に日々の無事を感謝しつつ、外出し心身のリフレッシュをしました。少しずつ秋の気配を感じつつ、8月を頑張って乗り越え、9月もスタッフ一同、明るく元気に楽しく仕事をしたいなあと思っております。(H)



秋はもうそこまで...オニヤンマ

お知らせ
特定健診・後期高齢者健診
10月末までです